

新型コロナウイルスとインフルエンザの 同時流行に注意！

新型コロナウイルス(以降新型コロナ)は夏以降、減少傾向が続き、水際対策が緩和され、全国旅行支援も始まりました。この中で懸念されるのが、これから冬にかけて新型コロナとインフルエンザが同時に流行する可能性です。

新型コロナが出現してからの過去2シーズン、同時流行はありませんでしたが、今年は何が違うのでしょうか？

インフルエンザは、東南アジアやアフリカなどの熱帯から亜熱帯の人口の多い地域では1年を通して感染が広がっています。それが国際的な人の移動で各国に流れ、ウイルスが広がる環境がしやすい冬の時期に大規模な流行を起こすと考えられてきました。それが、コロナ対策で国際的な人の行き来が制限されたり、人と人との接触が少なくなったりした影響で、インフルエンザの流行も起きなかったとみられています。

なぜ今年同時流行のおそれ？

専門家は、インフルエンザの流行が3年ぶりに起きるおそれがあるとして、次のような要因を挙げています。

【水際対策などの緩和】

世界の多くの国では今年の春以降、水際対策など行動制限を緩和する動きが続き、人の移動が大きく増えてきています。日本でも水際対策が大幅に緩和。入国者数の上限が撤廃され、海外からの自由な個人旅行が認められました。それによりインフルエンザの流行も起きやすい条件が整いやすくなると考えられています。

【インフルエンザの免疫ある人が少ない】

インフルエンザはこの2年は日本国内で流行しなかったため、免疫を獲得している人の割合が少なくなっていると考えられています。

【南半球のオーストラリアで流行】

日本とは季節が逆で、インフルエンザの流行の時期が半年ずれる南半球・オーストラリアでは今年、コロナが拡大する前と同じ程度のインフルエンザの流行が2年ぶりに起きました。

こうした点を踏まえ、この冬にかけてインフルエンザの流行が起き、新型コロナの「第8波」と重なる可能性があるとしています。

ワクチンは同時に接種しても大丈夫？

感染予防対策としては新型コロナもインフルエンザも変わりありません。手洗い・うがいなどの基本的な予防行動を続けましょう。それに加えワクチン接種も検討しましょう。

新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンとの同時接種は可能です。ただし、インフルエンザワクチン以外のワクチンは、新型コロナワクチンと同時に接種できません。互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種できます。



同時流行下で発熱 私たちはどう対応？

【重症化リスクが低い人の場合】

若い世代など重症化リスクが低い人は体調不良の場合、自宅などで国に承認された医療用の抗原検査キットを使って新型コロナに感染しているかどうか確認します。

コロナ陰性の場合は電話やオンライン診療、かかりつけ医などを通じてインフルエンザかどうか診断を受け、必要に応じて抗インフルエンザ薬の処方を受けます。

コロナ陽性の場合は健康フォローアップセンター(北海道陽性者健康サポートセンター等)を通じて登録し、自宅療養となります。ただ、症状が重いと感じるなど受診を希望する場合には、発熱外来やかかりつけ医を受診するとしています。

厚生労働省で作成している外来診療の流れを一緒に掲示していますので、参考にしてみてください。